

(証券コード 6059)
2019年6月10日

株 主 各 位

福岡県北九州市小倉北区熊本二丁目10番10号
株式会社ウチヤマホールディングス
代表取締役社長 内 山 文 治

第13回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第13回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示の上ご返送いただくか3頁に記載の「インターネットによる議決権行使のお手続きについて」をご参照の上、インターネットによりご行使いただくか、いずれかの方法により議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますして、2019年6月24日（月曜日）午後5時30分までに議決権をご行使くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年6月25日（火曜日）午前10時
2. 場 所 福岡県北九州市小倉北区浅野1丁目1番1号
JR九州ステーションホテル小倉 5階「飛翔の間」
3. 目的事項
報告事項
 1. 第13期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第13期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）計算書類の内容報告の件

決議事項

- | | |
|-------|----------------------------|
| 第1号議案 | 剰余金の処分の件 |
| 第2号議案 | 定款一部変更の件 |
| 第3号議案 | 取締役（監査等委員である取締役を除く。）9名選任の件 |
| 第4号議案 | 監査等委員である取締役3名選任の件 |
| 第5号議案 | 会計監査人選任の件 |

以上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎当社は、法令及び定款第15条の規定に基づき、次に掲げる事項をインターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.uchiyama-gr.jp>）に掲載しておりますので、株主総会招集通知添付書類には記載しておりません。

- ①事業報告の「会社の新株予約権等に関する事項」
- ②事業報告の「会社の体制及び方針」
- ③連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」
- ④連結計算書類の「連結注記表」
- ⑤計算書類の「株主資本等変動計算書」
- ⑥計算書類の「個別注記表」

なお、株主総会招集通知添付書類に記載されている事業報告、連結計算書類及び計算書類は、監査等委員会が監査報告、会計監査人が会計監査報告を作成するに際して監査をした書類の一部であります。

◎株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.uchiyama-gr.jp>）に掲載させていただきます。

<インターネットによる議決権行使のお手続きについて>

インターネットにより議決権を行使される場合は、下記事項をご確認のうえ、行使していただきますようお願い申し上げます。

当日ご出席の場合は、郵送（議決権行使書）またはインターネットによる議決権行使のお手続きはいずれも不要です。

記

1. 議決権行使サイトについて

- (1) インターネットによる議決権行使は、パソコン、スマートフォンまたは携帯電話から、当社の指定する議決権行使サイト（<https://evote.tr.mufg.jp/>）にアクセスしていただくことによるのみ実施可能です。（ただし、毎日午前2時から午前5時までは取り扱いを休止します。）
- (2) パソコンまたはスマートフォンによる議決権行使は、インターネット接続にファイアウォール等を使用されている場合、アンチウイルスソフトを設定されている場合、proxyサーバーをご利用の場合、TLS暗号化通信を指定されていない場合等、株主様のインターネット利用環境によっては、ご利用できない場合もございます。
- (3) 携帯電話による議決権行使は、セキュリティ確保のため、TLS暗号化通信および携帯電話情報の送信が不可能な機種には対応しておりません。
- (4) インターネットによる議決権行使は、2019年6月24日（月曜日）の午後5時30分まで受け付けいたしますが、お早めに行使していただき、ご不明な点等がございましたらヘルプデスクへお問い合わせください。

2. インターネットによる議決権行使方法について

(1) パソコン、携帯電話による方法

- ・議決権行使サイト（ <https://evote.tr.mufg.jp/> ）において、議決権行使書用紙に記載された「ログインID」および「仮パスワード」をご利用いただき、画面の案内に従って賛否をご入力ください。
- ・株主様以外の第三者による不正アクセス（“なりすまし”）や議決権行使内容の改ざんを防止するため、ご利用の株主様には、議決権行使サイト上で「仮パスワード」の変更をお願いすることになりますのでご了承ください。
- ・株主総会の招集の都度、新しい「ログインID」および「仮パスワード」をご通知いたします。

(2) スマートフォンによる方法

- ・議決権行使書用紙に記載の「ログイン用QRコード」をスマートフォンにより読み取ることで、議決権行使サイトに自動的に接続し、議決権行使を行うことが可能です。（「ログインID」および「仮パスワード」の入力は不要です。）
- ・セキュリティの観点からQRコードを用いた議決権行使は1回に限り可能です。2回目以降は、QRコードを読み取っても「ログインID」「仮パスワード」の入力が必要になります。
- ・スマートフォン機種によりQRコードでのログインが出来ない場合があります。QRコードでのログインが出来ない場合には、上記2.（1）パソコン、携帯電話による方法にて議決権行使を行ってください。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

3. 複数回にわたり行使された場合の議決権の取り扱い

- (1) 郵送とインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取り扱わせていただきますのでご了承ください。
- (2) インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。また、パソコン、スマートフォンと携帯電話で重複して議決権を行使された場合も、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

4. 議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用について

議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用（インターネット接続料金等）は、株主様のご負担となります。また、携帯電話等をご利用の場合は、パケット通信料・その他携帯電話等利用による料金が必要になりますが、これらの料金も株主様のご負担となります。

以 上

<p>システム等に関するお問い合わせ 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部（ヘルプデスク） ・電話 0120-173-027（受付時間 9:00～21:00、通話料無料）</p>
--

事業報告

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国の経済は、企業収益や雇用環境の改善などにより、全体的には緩やかな回復基調にあります。長引く米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題などの不安要因もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境下におきまして、当社グループでは、各セグメントで事業戦略に基づく営業活動等を積極的に推し進めてまいりました。また、介護事業、カラオケ事業、飲食事業間において、相互のシナジー効果を向上させるよう様々な取り組みを企画し実践するなどして、積極的にサービスの付加価値向上に努めました。経費面におきましても、コスト削減を進めることで経営の効率化を行い業績の安定化を図りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は27,209,311千円（前年同期比3.1%増）、営業利益は1,025,942千円（同13.9%減）、経常利益は1,326,222千円（同1.9%減）となりました。また、介護付有料老人ホーム4施設のセールアンドリースバック取引に伴い固定資産売却益が発生したことなどから特別利益として670,292千円を計上しましたが一方で、介護事業、カラオケ事業及び飲食事業並びにホテル事業における固定資産の将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減損処理することとし、減損損失334,496千円を計上したことなどから親会社株主に帰属する当期純利益は293,579千円増加し、1,102,209千円（同36.3%増）となりました。

各セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 介護事業

介護事業におきましては、介護付有料老人ホーム5カ所及びグループホーム1カ所を開設したほか、ショートステイ1事業所、障がい児通所支援事業放課後等デイサービス3事業所を新規開設するなど、積極的な展開を図りました。これらにより、当連結会計年度末時点での営業拠点は102カ所179事業所となりました。

当連結会計年度におきましては、産学官連携をさらに推し進めております。

公立大学法人九州歯科大学との連携では、社内資格の口腔ケア認定士の育成に努め、754名となりました。口腔ケアを充実させたことで、誤嚥性肺炎等の疾病予防が進んでおります。

国立大学法人九州工業大学との連携では、IOTの技術を利用し、介護スタッフの行動分析の実証実験を行いました。これらの実験の結果をもとに、AI等も活用して、職員の働き方改革にも役立てて行きたいと考えております。

国立大学法人九州大学との連携では、生きがいづくりをテーマにライフマップという入居者の情報収集ツールを開発しております。それを活用することで、施設入居後の生活をより充実したものとなるように努めております。

これらに加えて既存施設におきましては、近隣の病院や居宅介護支援事業所への訪問による連携の強化を推進することで入居率の安定化を目指した結果、当連結会計年度での既存施設の平均入居率は95.7%となりました（前期平均94.6%）。これらの結果、売上高は17,894,145千円（前年同期比10.9%増）、セグメント利益は1,238,951千円（同5.3%増）となりました。

② カラオケ事業

カラオケ事業におきましては、フードメニュー、ランチメニューの充実をはかり、単価アップに努めるとともに、SNS会員の獲得を強化し、クーポン券を配布するなどしてリピート客の増加を図りました。しかし、当連結会計年度においては新規出店を2店舗行った一方で退店を3店舗行ったことから、当連結会計年度末時点での店舗数は91店舗と前期と比較して1店舗減少しました。この結果、売上高は7,302,477千円（前年同期比4.3%減）、セグメント利益は880,618千円（同2.6%減）となりました。

③ 飲食事業

飲食事業におきましては、既存店の業態変更を1店舗、閉店を4店舗行ったことにより、当連結会計年度末時点での店舗数は国内17店舗、海外2店舗となりました。既存店舗におきましては、集客が減少傾向にあるため、タイムサービスの実施による集客の増加を図ったほか、宴会需要獲得のため、宴会コースに食べ放題を取り入れるなどして客単価の向上に努めました。しかしながら、閉店に伴う集客の減少などから、売上高は1,586,380千円（前年同期比9.7%減）、セグメント利益は51,848千円（同274.7%増）となりました。

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、販売用不動産の売買及び賃貸不動産の仲介業務等を中心に行っております。前期では販売用不動産の売却等による収入が420,000千円程度ありましたが、今期は15,000千円程度となったため、売上高は197,478千円（前年同期比68.3%減）、セグメント利益は20,046千円（同85.7%減）となりました。

⑤ その他

その他におきましては、ホテル事業において、宿泊客の増加、宴会の獲得、日帰り入浴の促進等に取り組みました。この結果、売上高は228,830千円（前年同期比10.1%減）、セグメント損失は53,660千円（前年同期はセグメント損失32,250千円）となりました。

セグメント別売上高

区 分	前 期	当 期
介 護 事 業	16,139 百万円	17,894 百万円
カ ラ オ ケ 事 業	7,628	7,302
飲 食 事 業	1,757	1,586
不 動 産 事 業	623	197
そ の 他	254	228
合 計	26,402	27,209

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は、1,839百万円であり、その主なものは、介護事業の介護施設の新設、カラオケ事業における店舗の出店資金等となります。

(3) 資金調達の状況

当社グループは、2019年3月27日に第1回無担保社債を発行し、これにより300百万円の資金調達を行いました。

(4) 対処すべき課題

当社グループは「幼・青・老の共生」をコンセプトとして、「幼年～青年～老年、共に楽しく過ごせる社会作り」を目指し、介護施設やカラオケ店舗の運営を中心とした事業展開を図っております。

今後は、更なる広域展開を志向し、当社グループのコンセプトやブランドイメージを全国的に定着させるべく、各事業子会社、各事業セグメントにおける対処すべき課題を適宜精査し、その都度適切な対応策を講じてまいります。

当社グループとして、現在事業の拡大・推進にあたり重要な課題として認識している事項は、以下のとおりであります。

(全社)

① 人材育成の方針

当社グループの属する介護業界、カラオケ業界及び飲食業界では慢性的に労働力不足の問題を抱えております。当社グループにおきましては、対応策として採用に力を入れるのはもちろんですが、OJTを中心とした技術指導だけではなく、従業員研修制度に基づく各種取り組みにおいて個々の成長をフォローし、職責や当社グループに対するロイヤリティを高めることで定着率の安定化を図ってまいります。

② 管理体制の強化

当社グループとして、今後事業規模を拡大していくにあたり、人材の育成とともに管理体制を強化し、企業統治をより機能的に行っていくことが重要であると考えております。当社グループにおいては、管理・統制機能を担う各管理部門及び経営企画室を持株会社である当社に集約し、企業グループとして一体的な管理ラインを構築・運用することで、正確かつ効率的な企業統治に努めております。

(介護事業)

① 事業展開地域の拡大

当社グループは、九州を中心に介護施設及び事業所を展開してまいりましたが、事業の中心たる介護付有料老人ホーム（特定施設入居者生活介護）については、介護保険施設等にかかる総量規制の対象となっていることから、従来以上にスピード感をもって新規開設を図るべく、全国の自治体による公募に参加し、開設の認可を得られるように努めると同時に、業界再編に伴う既存施設のM&A案件の情報等も積極的に収集するなどして、事業規模拡大の方策を検討してまいります。なお、全国各地域を対象として考えておりますが、当該地域における事業展開の将来性を判断するにあたり、高齢者の居住状況や同業他社の有無、運営状況については、十分に調査を行っております。

② 接遇レベルの向上

当社グループの介護施設の入居者のほとんどの方が要介護認定者であり、そのような方々に快適な生活を提供するためには、自立支援の観点を持ち、過剰なサービスとならないために配慮することが不可欠であり、その見極めには知識や経験、正しい情報が必要となります。それらを適切に行っていくためにも、自社の研修制度を充実させ、それらを通じて、従業員の能力向上を図るとともに、本質的なサービスの質の向上を果たし、少しでも多くの入居者の満足感や信頼が得られるように努めております。

③ 施設レベルの向上

介護施設において、利用者に安心、安全にお過ごし頂くためには、介護職員による接遇レベルの向上のみならず、施設の安全性や信頼性を確保する必要があります。当社グループでは、災害時を想定した防災訓練の実施や、日々のクリンリネスの徹底、厨房の衛生検査の実施などにより、安全、衛生管理に取り組んでおります。また、介護事業においては、介護保険法や老人福祉法をはじめとする関係法令の周知は不可欠であることから、研修委員会等を通じて知識や技術指導を行うとともに、コンプライアンス委員会主導の下、コンプライアンス推進会による法令全般に係る指導の徹底に努めております。

④ 有資格者の確保

介護サービスの提供にあたり、看護師やケアマネジャー、介護福祉士等の有資格者の確保は不可欠であり、法令遵守の観点からも、有資格者の安定した雇用は重要な課題であると考えております。当社グループでは、有資格者の採用にあたって、知識・経験等を十分に考慮するとともに、入社後においても、能力や実績に応じて適宜待遇面の見直しを行うなどして、安定的な採用と定着率の向上を図っております。

(カラオケ事業)

① 遠隔店舗の店舗力強化

当社グループのカラオケ事業は、福岡県を中心とした九州・山口地区から三重県、滋賀県、広島県、東京都、兵庫県、茨城県、静岡県、神奈川県への進出を果たし、広範囲に渡る地域展開を行ってまいりました。今後も全国展開を継続していくためには、各店舗が安定的に収益を生み出すことが必要であり、そのためには、管理体制、教育体制の強化を図り、迅速な問題の把握とその解決に努めなければならないと考えております。web会議等を活用し遠隔店舗の情報を迅速に掴むとともに、店舗のサービス力、商品力の客観評価を行い、適切に改善策、対応策を打ち出すことができる体制の構築に努めてまいります。

② 競争激化と他社との差別化

カラオケ事業者各社の出店は、当社グループと同じく都心、駅前および繁華街立地が中心となる傾向にあり、各地域での競合が激しさを増しております。当社グループとしては、繁華街立地で見込みやすい宴会需要に対して、コースメニューを充実、飲み放題・歌い放題プランの種類を増やすなどして他社との差別化を図っております。

(飲食事業)

① 競争激化と他社との差別化

国内飲食業界においては、顧客の消費意欲の減退に伴い競争が激化しており、今後もその状態が継続すると考えられます。当社グループにおいては、競争力のある商品力、サービス力、価格設定等を随時検討するとともに、既存店舗の業態変更やリニューアルを行うなどして、対応策を講じてまいります。また、日本食の需要の高い海外での店舗展開についても引き続き検討してまいります。

② 商品力、接客の強化

当社グループでは、顧客のニーズを汲んだ商品提供を適時に行うために、料理長会議を月一回実施しており、既存商品のブラッシュアップや新商品の開発に取り組むとともに、品質や安全性について研鑽を積んでおります。また、接客についても、積極的な採用活動による優秀な人材の確保と教育・研修を通じたサービススキルの向上を図っております。

③ 衛生管理の強化

衛生上の事故を予防し、顧客の信頼を保つことは、飲食事業を継続的に運営する上での前提となります。当社グループでは、専任の環境パトロール担当者を設置し、クリンリネスのチェックを行っている他、カラオケ事業を含めた全店舗において外部業者による定期的な衛生検査を導入しており、客観的な検証を通して衛生管理の精度の向上に努めております。

(5) 財産及び損益の状況

区 分	2016年3月期 第10期	2017年3月期 第11期	2018年3月期 第12期	2019年3月期 (当連結会計年度) 第13期
売 上 高	23,897,098 千円	25,318,306 千円	26,402,628 千円	27,209,311 千円
経 常 利 益	324,901 千円	1,008,436 千円	1,352,098 千円	1,326,222 千円
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	983,096 千円	59,987 千円	808,629 千円	1,102,209 千円
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	46.11 円	3.10 円	41.83 円	57.02 円
総 資 産	30,912,409 千円	30,355,875 千円	29,986,308 千円	30,072,034 千円
純 資 産	15,285,755 千円	14,794,897 千円	15,397,017 千円	16,229,899 千円
1 株 当 た り 純 資 産 額	765.54 円	765.34 円	796.49 円	839.58 円

(注) 第13期(2019年3月期)の1株当たり純資産額の算定上、「株式給付信託(J-E S O P)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行(株)(信託E口)が保有する当社株式を期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。また、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たりの純資産額の算定上、控除した当該自己株式の当連結会計年度末株式数は72,150株であります。また、1株当たりの当期純利益の算定上、控除した当該株式の期中平均株式数は23,523株であります。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社との関係

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
株式会社さわやか倶楽部	200,800 千円	100 %	介護事業・不動産事業・その他
株式会社ボナー	84,800	100	カラオケ事業・飲食事業・不動産事業
Bonheure(Thailand)Co., Ltd.	6,000 千THB	100 (99)	飲食事業
KANTEKIYA(THAILAND)CO.,LTD.	4,000 千THB	100 (99)	飲食事業

(注) 「当社の出資比率」欄の () 内の数字は間接所有割合であります。

③ 事業年度末日における特定完全子会社の状況

該当事項はありません。

(7) 主要な事業内容

事業	事業内容
介護事業	有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅、グループホーム、ショートステイ、ヘルパーステーション、ケアプランセンター、デイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護施設、訪問看護ステーション、障がい児通所支援事業放課後等デイサービス、事業所内保育事業所の運営
カラオケ事業	カラオケ店（コロック倶楽部）の運営
飲食事業	飲食店（かんできや、かまどふっくら、再生酒場、鳥くらぶ、フジヤマ桜、ハイボールバー銀天街1923等）の運営
不動産事業	不動産の賃貸・管理・仲介・売買等
その他の事業	ホテル事業における宿泊及び飲食・サービスの提供等

(8) 主要な事業所及び店舗等

① 当 社

・本社 福岡県北九州市小倉北区熊本二丁目10番10号

② 重要な子会社

(介護事業)

株式会社さわやか倶楽部

・本社 福岡県北九州市小倉北区

・介護施設等 102カ所179事業所

都道府県	拠 点 数	事業所数	都道府県	拠 点 数	事業所数	都道府県	拠 点 数	事業所数
北 海 道	3	5	静 岡 県	2	2	岡 山 県	5	7
秋 田 県	3	5	愛 知 県	4	8	山 口 県	1	1
新 潟 県	4	8	三 重 県	1	2	愛 媛 県	1	4
神 奈 川 県	1	1	京 都 府	2	4	福 岡 県	50	98
千 葉 県	5	6	大 阪 府	3	4	大 分 県	3	5
栃 木 県	6	10	兵 庫 県	2	3	合 計	102	179
埼 玉 県	5	5	和 歌 山 県	1	1			

(カラオケ事業・飲食事業)

株式会社ボナー

・本社 福岡県北九州市小倉北区

・カラオケ店舗 91店舗

都 道 府 県	店 舗 数	都 道 府 県	店 舗 数	都 道 府 県	店 舗 数
東 京 都	5	三 重 県	1	熊 本 県	3
神 奈 川 県	2	広 島 県	1	大 分 県	8
茨 城 県	1	山 口 県	9	宮 崎 県	6
静 岡 県	1	福 岡 県	35	鹿 児 島 県	3
兵 庫 県	2	佐 賀 県	4	沖 縄 県	6
滋 賀 県	1	長 崎 県	3	合 計	91

・飲食店舗（国内） 17店舗

都 道 府 県	店 舗 数	都 道 府 県	店 舗 数
東 京 都	2	大 分 県	2
福 岡 県	11	宮 崎 県	1
熊 本 県	1	合 計	17

Bonheure(Thailand)Co., Ltd.

・本社 Bangkok,Thailand

・飲食店舗（国外） 1店舗

国 名	店 舗 数
夕 イ	1

KANTEKIYA(THAILAND)CO.,LTD.

・本社 Bangkok,Thailand

・飲食店舗（国外） 1店舗

国 名	店 舗 数
夕 イ	1

(9) 従業員の状況

① 企業集団の従業員数

従業員数	前連結会計年度末比増減
2,088名	60名増

(注) 上記従業員には、臨時従業員（パートタイマー、嘱託、顧問及び派遣社員）2,479名は含んでおりません。

② 当社の従業員数

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
30名	4名増	44.2歳	8.4年

(10) 主要な借入先

借入先	借入残額
株式会社西日本シティ銀行	1,812,242 千円
株式会社関西アーバン銀行	1,528,740
三井住友信託銀行株式会社	1,060,000
株式会社みずほ銀行	944,595
株式会社三井住友銀行	884,594

(11) その他企業集団の現況に関する重要な事項

当社は、企業の社会性を重視し、社会貢献活動として様々な取り組みを行い、地域との密着を図っています。

その一環として現在、地元北九州市で年に数回開催している著名講師を招いての文化セミナーは、第27回目を迎えました。

また、チャイルドスポンサーシップへの寄付活動やラオスでの小学校建設を通じて、貧困や病気、災害、紛争などに苦しむ世界の子供たちの支援を行っているほか、NPO法人テラ・ルネッサンスによる元子ども兵社会復帰プロジェクトにも寄付を行っています。

そのほか、路上生活の方々へ週一回、炊き出しの支援活動も行っております。一人でも多くの方に支援の手が差し伸べられるように取り組んでおります。

2005年3月の福岡西方沖地震や2011年3月の東日本大震災では、当社グループの高齢者施設で高齢被災者の方々への無償受け入れを行いました。2016年4月14日に発生した熊本地震におきましても、翌日には被災された高齢者の方々への無償受け入れを表明し、38名の受け入れを行いました。現在でも3名の方が生活をしておられます。

また、被災直後にはお米や飲料水、食料品、衣料品、生活備品等の支援物資の調達と運搬を行ったほか、被災から約1年となる2017年4月17日には、被害が甚大であった熊本県上益城郡益城町に義援金を贈呈するなどして支援活動を継続して行っております。

2018年6月からは、北九州市子ども家庭局及び北九州市立大学と協働で、北九州市小倉北区に「ウチヤマ子ども食堂」をオープンし、週1回地域の子どもたちに、あたたかくおいしい食事を提供する活動をはじめました。現在、社会問題となりつつある子どもたちの「孤食」を予防するとともに、「食」に対する興味や知識を増やす「食育」の場となるようにしていきたいと考えております。

今後におきましても、経済活動のみならず、社会への貢献が企業の重要な責務であると考え、積極的に取り組んでまいります。

2. 会社の株式に関する事項 (2019年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 58,400,000株
 (2) 発行済株式の総数 21,618,800株 (自己株式2,215,627株を含む。)
 (3) 株 主 数 6,548名
 (4) 大株主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数(株)	持 株 比 率
合同会社ウチヤマフューチャー	6,468,000 株	33.33 %
内山 文治	2,151,420	11.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,117,300	5.76
内山 孝子	873,320	4.50
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	775,000	3.99
ウチヤマホールディングス従業員持株会	515,300	2.66
ウチヤマホールディングス取引先持株会	326,700	1.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	316,000	1.63
株式会社エクシング	304,800	1.57
MSIP CLIENT SECURITIES	295,400	1.52

- (注) 1 当社は、自己株式2,215,627株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 2 2019年3月31日現在における日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) 及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) の信託業務の株式数については、当社として把握することができないため記載しておりません。
 3 上記のほか当社所有の自己株式2,215,627株 (発行済株式総数に対する所有株式数の割合10.25%) があります。
 4 当社は、「株式給付信託(J-ESOP)」制度を導入しており、当該制度に係る信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式72,150株は、自己株式数に含めておりません。

- (5) その他株式に関する重要な事項
 特に記載すべき事項はありません。

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役の氏名等 (2019年3月31日現在)

氏名	地位	担当及び重要な兼職の状況
内山文治	代表取締役社長	株式会社さわやか倶楽部代表取締役社長
生嶋伸一	専務取締役	株式会社ボナー代表取締役会長
竹村義明	専務取締役	株式会社さわやか倶楽部専務取締役
歌野繁美	専務取締役	株式会社ボナー代表取締役社長
山本武博	専務取締役	経営企画室長、株式会社さわやか倶楽部専務取締役、株式会社ボナー専務取締役
吉岡信之	取締役	株式会社さわやか倶楽部取締役
川村謙二	取締役	株式会社さわやか倶楽部取締役
二村浩司	取締役	株式会社ボナー専務取締役
矢田逸夫	取締役	
神尾榮一	取締役	税理士法人神尾アンドパートナーズ統括代表社員、株式会社きよくとう監査役
嶋井太郎	取締役 (常勤監査等委員)	株式会社さわやか倶楽部監査役 株式会社ボナー監査役
住川守	取締役 (監査等委員)	住川守税理士事務所代表
岸本進一郎	取締役 (監査等委員)	公認会計士岸本会計事務所代表

- (注) 1. 取締役矢田逸夫氏、神尾榮一氏、住川守氏、岸本進一郎氏は、社外取締役であります。
 2. 情報収集その他監査の実効性を高め監査・監督機能を強化するため、常勤の監査等委員を選定しております。
 3. 当社は取締役矢田逸夫氏及び神尾榮一氏を、東京証券取引所規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。
 4. 監査等委員住川守氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
 5. 監査等委員岸本進一郎氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役矢田逸夫氏及び神尾榮一氏並びに監査等委員である取締役嶋井太郎氏、住川守氏、岸本進一郎氏との間で会社法第427条第1項に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。

(3) 当事業年度に係る取締役の報酬等の額

区 分	支 給 人 員	報酬等の額
取締役（監査等委員を除く） （うち社外取締役）	10名 （ 2名）	179,230千円 （ 3,000千円）
取締役（監査等委員） （うち社外取締役）	3名 （ 2名）	11,592千円 （ 4,800千円）

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 取締役（監査等委員を除く）の報酬限度額は、2017年6月27日開催の定時株主総会において年額300,000千円以内（うち社外取締役の報酬額は年額10,000千円以内）と決議いただいております。
 3. 取締役（監査等委員）の報酬限度額は、2017年6月27日開催の定時株主総会において年額30,000千円以内と決議いただいております。

(4) 社外役員に関する事項

① 役員の重要な兼職先と当社との関係

区 分	氏 名	重要な兼職先である他の法人等と当社との関係
取締役	神 尾 榮 一	神尾榮一氏の兼職先である税理士法人神尾アンドパートナーズと当社及び子会社株式会社さわやか倶楽部は、税務顧問契約を締結しております。また同氏は株式会社きよくとうの監査役を兼職しております。株式会社きよくとうと当社との間には特別な関係はありません。
取締役 (監査等委員)	住 川 守	住川守税理士事務所と当社との間には特別な関係はありません。
取締役 (監査等委員)	岸 本 進一郎	公認会計士岸本会計事務所と当社との間には特別な関係はありません。

②当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	活 動 状 況
取締役	矢 田 逸 夫	当事業年度開催の取締役会に17回中16回出席（出席率94.1%）し、議案に対し主に出身分野である行政機関で培った経験・見地から、議案の審議等に必要な発言を適宜行っております。
取締役	神 尾 榮 一	当事業年度開催の取締役会に17回中8回出席（出席率47.1%）し、公認会計士及び税理士としての専門的見地から、議案の審議等に必要な発言を適宜行っております。
取締役 (監査等委員)	住 川 守	当事業年度開催の取締役会に17回中17回出席（出席率100.0%）し、税理士としての専門的見地から、議案の審議等に必要な発言を適宜行っております。 当事業年度開催の監査等委員会に13回中13回出席（出席率100.0%）し、税理士としての専門的見地から、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。
取締役 (監査等委員)	岸 本 進一郎	当事業年度開催の取締役会に17回中17回出席（出席率100.0%）し、公認会計士及び税理士としての専門的見地から、議案の審議等に必要な発言を適宜行っております。 当事業年度開催の監査等委員会に13回中13回出席（出席率100.0%）し、公認会計士及び税理士としての専門的見地から、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。

(注) 取締役会の開催回数には書面決議（2回）を含んでおりません。

4. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

明治アーク監査法人

(2) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(3) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等

37,000千円

② 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

37,000千円

- (注) 1. 当社監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画の内容、監査報酬の推移ならびに過年度の監査計画と実績の状況などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。
2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査及び金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額には、これらの合計額を記載しております。
3. 当社の子会社である Bonheure(Thailand)Co.,Ltd.、KANTEKIYA(THAILAND)CO.,LTD. 及び PT.Sawayaka Fujindo Indonesiaは、当社の会計監査人以外の公認会計士の監査を受けております。

(4) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(5) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合には、監査等委員である取締役全員の同意により会計監査人を解任いたします。また、会計監査人がその職務を適切に遂行することが困難であると認められる場合には、監査等委員会の決議により、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に提出いたします。

(注) 本事業報告中の記載金額・株数は、表示単位未満を切り捨て、比率については表示単位未満を四捨五入としております。

連結貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	15,549,530	流動負債	6,756,849
現金及び預金	9,159,666	買掛金	632,235
売掛金	2,088,868	短期借入金	357,000
商売用不動産	53,667	1年内償還予定の社債	60,000
貯蔵品	3,255,629	1年内返済予定の長期借入金	2,673,723
その他の金	262	未払法人税等	445,158
貸倒引当金	997,447	賞与引当金	241,764
	△6,010	ポイント引当金	89,429
固定資産	14,522,504	株主優待引当金	13,095
有形固定資産	8,828,058	資産除去債務	16,411
建物及び構築物	5,484,524	その他	2,228,031
土地	2,776,844	固定負債	7,085,286
その他	566,688	社債	240,000
無形固定資産	62,003	長期借入金	5,612,131
ソフトウェア	42,967	繰延税金負債	377,970
その他	19,036	資産除去債務	212,532
投資その他の資産	5,632,442	その他	642,652
投資有価証券	1,022,958	負債合計	13,842,135
繰延税金資産	462,735	(純資産の部)	
敷金及び保証金	2,475,925	株主資本	16,323,959
その他の金	1,693,446	資本	2,222,935
貸倒引当金	△22,624	資本剰余金	2,664,695
		利益剰余金	12,600,748
		自己株式	△1,164,420
		その他の包括利益累計額	△94,059
		その他有価証券評価差額金	△94,272
		為替換算調整勘定	212
		純資産合計	16,229,899
資産合計	30,072,034	負債・純資産合計	30,072,034

連結損益計算書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	27,209,311
売上原価	24,490,195
売上総利益	2,719,115
販売費及び一般管理費	1,693,173
営業利益	1,025,942
営業外収益	
受取利息	5,219
受取配当金	4,124
受取手数料	148,871
補助金の収入	106,328
その他	136,542
営業外費用	
支払利息	66,072
その他	34,732
経常利益	1,326,222
特別利益	
固定資産売却益	504,390
受取保険金	165,902
特別損失	
固定資産売却損	44,168
固定資産除却損	54
減損損失	334,496
災害損失	44,688
税金等調整前当期純利益	1,573,106
法人税、住民税及び事業税	530,126
法人税等調整額	△59,229
当期純利益	1,102,209
親会社株主に帰属する当期純利益	1,102,209

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2019年5月21日

株式会社ウチヤマホールディングス
取締役会 御中

明治アーク監査法人

指 定 社 員 公認会計士 後藤 正尚 ㊞
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 藤本 幸宏 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ウチヤマホールディングスの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ウチヤマホールディングス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	3,416,559	流動負債	403,114
現金及び預金	1,261,251	短期借入金	56,000
貯蔵品	262	1年内返済予定の長期借入金	290,320
前払費用	9,127	未払金	23,188
関係会社短期貸付金	2,052,000	未払費用	6,778
未収還付法人税等	93,539	前受金	21
その他	378	預り金	8,508
固定資産	2,921,177	賞与引当金	5,202
有形固定資産	22,746	株主優待引当金	13,095
建物	1,194	固定負債	768,532
工具器具及び備品	21,551	長期借入金	750,000
無形固定資産	89	その他	18,532
ソフトウェア	89	負債合計	1,171,646
投資その他の資産	2,898,341	(純資産の部)	
関係会社株式	1,050,025	株主資本	5,166,089
出資金	10	資本金	2,222,935
関係会社長期貸付金	1,285,000	資本剰余金	2,675,305
従業員に対する長期貸付金	345	資本準備金	1,939,791
長期前払費用	221	その他資本剰余金	735,513
繰延税金資産	5,353	利益剰余金	1,432,269
保険積立金	557,385	利益準備金	20,192
		その他利益剰余金	1,412,077
		繰越利益剰余金	1,412,077
		自己株式	△1,164,420
		純資産合計	5,166,089
資産合計	6,337,736	負債・純資産合計	6,337,736

損 益 計 算 書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
営 業 収 益		
業 務 受 託 収 入	344,444	
経 営 指 導 料 金	125,834	
関 係 会 社 受 取 配 当 金	522,144	992,423
販売費及び一般管理費		
役 員 報 酬	190,822	
給 与 手 当	117,118	
賞 与 引 当 金 繰 入 額	5,202	
法 定 福 利 費	30,777	
減 価 償 却 費	13,288	
賃 借 料	33,007	
支 払 手 数 料	68,887	
株 主 優 待 引 当 金 繰 入 額	13,035	
そ の 他 益	80,846	552,985
営 業 利 益		439,438
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	39,814	
受 取 配 当 金	0	
受 取 賃 貸 料	16,082	
受 取 手 賃 料	3,775	
保 険 解 約 返 戻 金	12,535	
そ の 他	4,061	76,269
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	2,831	
支 払 手 数 料	1,982	
保 険 解 約 損	3,590	
そ の 他	0	8,404
経 常 利 益		507,302
税 引 前 当 期 純 利 益		507,302
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,576	
法 人 税 等 調 整 額	△390	1,185
当 期 純 利 益		506,117

計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2019年5月21日

株式会社ウチヤマホールディングス
取締役会 御中

明治アーケ監査法人

指 定 社 員 公認会計士 後藤 正尚 ㊞
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 藤本 幸宏 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ウチヤマホールディングスの2018年4月1日から2019年3月31日までの第13期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査等委員会の監査報告

監査報告書

当監査等委員会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第13期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、常勤監査等委員が重要な子会社の監査役を兼務しており、各子会社の取締役会に出席するほか、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその他の附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人明治アーク監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人明治アーク監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月23日

株式会社ウチヤマホールディングス 監査等委員会

常勤監査等委員 嶋 井 太 郎 ㊞

監査等委員 住 川 守 ㊞

監査等委員 岸 本 進一郎 ㊞

(注) 監査等委員住川守及び岸本進一郎は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当期の期末配当につきましては、経営体質の強化と今後の事業展開等を勘案し、内部留保にも意を用い、下記のとおりと致したいと存じます。

- (1) 配当財産の種類
金銭といたします。
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金5円 総額97,015,865円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2019年6月26日

第2号議案 定款一部変更の件

(1) 提案の理由

当社グループの業容拡大にともない、現行定款第2条（目的）につきまして、事業目的を追加するものであります。

(2) 変更の内容

現行定款の一部を次の変更案（変更部分は下線で示す。）のとおり改めたいと存じます。

現 行 定 款	変 更 案
第1条（条文省略）	第1条（現行どおり）
（目 的）	（目 的）
第2条（条文省略）	第2条（現行どおり）
1（条文省略）	1（現行どおり）
(1)～(6)（条文省略）	(1)～(6)（現行どおり）
(7). 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業 (新設) (新設)	(7). 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づくサービス事業 ①指定特定相談支援事業の経営 ②障害福祉サービス事業の経営
(8). 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業 (新設) (新設) (新設)	(8). 児童福祉法に基づくサービス事業 ①障害児相談支援事業の経営 ②障害児通所支援事業の経営 ③障害福祉サービス事業の経営
(9)～(26)（条文省略）	(9)～(26)（現行どおり）
2～5（条文省略）	2～5（現行どおり）
第3条～第45条（条文省略）	第3条～第45条（現行どおり）

第3号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）9名選任の件

監査等委員でない取締役全員（10名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査等委員でない取締役9名の選任をお願いするものであります。

監査等委員でない取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
1	<p style="text-align: center;"> <small>うち やま みみ ほる</small> 内 山 文 治 (1941年4月12日生) </p>	<p> 1971年6月 内山ビル株式会社代表取締役社長 1984年10月 株式会社ウチャマアール代表取締役社長 1984年10月 株式会社ボナー取締役 1987年3月 株式会社ハウス二十二代表取締役社長 1998年2月 有限会社コウノ取締役 2004年12月 株式会社さわやか倶楽部代表取締役社長（現任） 2006年10月 当社代表取締役社長（現任） 2009年11月 株式会社さわやか天の川（現株式会社さわやか倶楽部） 代表取締役社長 現在に至る (重要な兼職の状況) 株式会社さわやか倶楽部代表取締役社長 </p>	2,151,420株
<p> [取締役候補者とした理由] 候補者は、創業者として、創業以来長年にわたって当社グループの経営にあたり、今日の当社グループの礎を築いてまいりました。今後、当社グループが更なる成長、発展するためには、同氏のリーダーシップと豊富な経験が果たす役割は大きいと判断し、同氏を引き続き取締役候補者としております。 </p>			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社 株式の数
2	たけむらよしあき 竹村義明 (1963年8月23日生)	<p>1989年1月 内山ビル株式会社入社 1991年5月 株式会社アメニティー監査役 1995年10月 株式会社ゼンコーポレーション取締役 1996年6月 株式会社アメニティー代表取締役社長 1998年10月 内山ビル株式会社取締役 2004年12月 株式会社さわやか倶楽部専務取締役（現任） 2006年10月 当社専務取締役（現任） 2009年11月 株式会社さわやか天の川（現株式会社さわやか倶楽部） 専務取締役 現在に至る</p> <p>（重要な兼職の状況） 株式会社さわやか倶楽部専務取締役</p>	64,935株
<p>〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、当社グループの主要なセグメントである介護事業の責任者として経営に長年携わっております。また、不動産事業における経験も豊富で、それぞれの分野での実績も有しております。今後も当社の経営の意思決定や業務執行に対して適切な監督を行うことの出来る人材と考え、同氏を引き続き取締役候補者としております。</p>			
3	うたのしげみ 歌野繁美 (1965年6月28日生)	<p>1990年9月 内山ビル株式会社入社 1994年6月 株式会社アメニティー取締役 1995年10月 株式会社ゼンコーポレーション取締役 1998年1月 内山ビル株式会社取締役 2005年11月 株式会社ボナー専務取締役 2006年10月 当社専務取締役（現任） 2011年4月 株式会社ボナー代表取締役社長（現任） 現在に至る</p> <p>（重要な兼職の状況） 株式会社ボナー代表取締役社長</p>	65,435株
<p>〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、当社グループの主要な事業会社である株式会社ボナーの代表取締役社長を務めております。不動産事業、カラオケ事業及び飲食事業に長年携わり、同分野での経験と実績を有しております。今後も、これまでの経験と経営全般に関する知見をもとに当社の取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考え、同氏を引き続き取締役候補者としております。</p>			

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社 株式の数
4	やま もと たけ ひろ 山 本 武 博 (1971年1月30日生)	<p>1994年7月 有限会社サイトウ入社 2002年3月 有限会社ノア取締役 2002年3月 有限会社コウノ取締役 2002年3月 株式会社ゼンコーポレーション取締役 2004年2月 内山ビル株式会社監査役 2005年11月 株式会社ボナー専務取締役 (現任) 2006年10月 当社専務取締役 2008年3月 当社専務取締役経営企画室長 (現任) 2010年6月 株式会社さわやか倶楽部専務取締役 (現任) 現在に至る</p> <p>(重要な兼職の状況) 株式会社ボナー専務取締役 株式会社さわやか倶楽部専務取締役</p>	18,935株
〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、経営企画の責任者として主にIPOや中期経営計画の推進、IR等に携わってまいりました。これまでの豊富な経験と実績から、当社グループの企業価値を向上させるため、当社の取締役として適切な人材であると判断し、同氏を引き続き取締役候補者としております。			
5	よし おか のぶ ゆき 吉 岡 信 之 (1956年1月2日生)	<p>2002年3月 社会福祉法人さわやか会事務長 2006年10月 当社取締役 (現任) 2007年3月 株式会社さわやか倶楽部取締役 (現任) 現在に至る</p> <p>(重要な兼職の状況) 株式会社さわやか倶楽部取締役</p>	26,338株
〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、当社グループの主要なセグメントである介護事業に長年携わっております。介護支援専門員の資格を持ち、介護分野における豊富な業務経験と専門的な知見を有していることから、今後も当社の取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考え、同氏を引き続き取締役候補者としております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社 株式の数
6	かわ 村 謙 二 (1961年8月30日生)	2003年8月 有限会社コウノ入社 2005年6月 株式会社さわやか倶楽部取締役（現任） 2006年10月 当社取締役（現任） 現在に至る （重要な兼職の状況） 株式会社さわやか倶楽部取締役	17,638株
〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、当社グループの主要なセグメントである介護事業に長年携わっております。また、医療機関での勤務経験も豊富で、介護、医療の両分野にまたがる幅広い見識と専門性を有しております。これらの経験と実績から今後も当社の取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考え、同氏を引き続き取締役候補者としております。			
7	ふた 村 浩 司 (1976年1月15日生)	1996年5月 株式会社ボナー入社 2002年3月 有限会社ノア取締役 2002年3月 有限会社コウノ取締役 2002年3月 株式会社ゼンコーポレーション取締役 2005年11月 株式会社ボナー常務取締役 2010年6月 当社取締役（現任） 2011年4月 株式会社ボナー専務取締役（現任） 現在に至る （重要な兼職の状況） 株式会社ボナー専務取締役	34,019株
〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、当社グループの主要なセグメントであるカラオケ事業及び飲食事業に長年携わっております。カラオケや飲食店舗のオペレーションに精通しており、豊富な経験と実績を有しております。今後も、当社の取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考え、同氏を引き続き取締役候補者としております			

候補者 番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社 株式の数
8	夫 逸 田 矢 (1940年2月12日生)	1964年2月 北九州市役所小倉北福祉事務所入職 2000年3月 財団法人北九州上下水道協会入職 2008年6月 当社監査役 2014年6月 当社取締役(現任) 現在に至る	1,638株
〔社外取締役候補者とした理由〕 候補者は、長年北九州市役所での豊富な業務経験を通じ、特に小倉北福祉事務所では福祉行政に深く精通し、人格、見識の上で職務を適切に遂行していただけると判断したため、社外取締役として選任をお願いするものであります。なお、同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役として、その職務を適切に遂行できるものと判断し同氏を引き続き候補者としております。			
9	一 榮 尾 神 (1933年8月25日生)	1971年4月 神尾公認会計士事務所開業(現 税理士法人神尾アンドパートナーズ)(現任) 1979年7月 監査法人第一監査事務所福岡事務所代表社員 1992年7月 日本公認会計士協会理事 2000年4月 監査法人太田昭和センチュリー(現 EY新日本有限責任監査法人)代表社員、理事 2000年11月 監査法人太田昭和センチュリー(現 EY新日本有限責任監査法人)相談役 2001年4月 北九州市監査委員 2009年5月 株式会社さよくとう監査役(現任) 2015年6月 当社取締役(現任) 現在に至る (重要な兼職の状況) 税理士法人神尾アンドパートナーズ統括代表社員 株式会社さよくとう監査役	8,000株
〔社外取締役候補者とした理由〕 候補者は、公認会計士として大手監査法人の代表社員を務めた経歴があり、高い識見と経験を有しております。また、企業会計の実務に長年にわたり携わっていることなどから、当社の社外取締役として適任であると判断し、同氏を引き続き候補者としております。			

- (注) 1. 各取締役候補者と当社の間には、いずれも特別の利害関係はありません。
2. 矢田逸夫、神尾榮一の両氏は、社外取締役候補者であります。なお、当社は両氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員と指定し、同取引所に届け出ております。
3. 当社は、矢田逸夫、神尾榮一の両氏との間で会社法第427条第1項に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお本総会において、本議案が承認された場合、当社は矢田逸夫氏、神尾榮一氏と当該契約を継続する予定であります。
4. 矢田逸夫、神尾榮一の両氏は現在当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって矢田逸夫氏は5年、神尾榮一氏は4年となります。
5. 取締役候補者の所有する当社株式の数には、ウチヤマホールディングス役員持株会における各自の持分を含めた実質所有株式数を記載しております。

第4号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

監査等委員である取締役全員（3名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、監査等委員である取締役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案の提案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
1	嶋井太郎 (1974年7月15日生)	1997年4月 株式会社NTTデータ入社 2001年3月 株式会社ボナー入社 2006年10月 当社入社 2007年4月 株式会社ボナー監査役（現任） 2014年6月 当社監査役 株式会社さわやか倶楽部監査役（現任） 2017年6月 当社取締役（監査等委員）（現任） 現在に至る (重要な兼職の状況) 株式会社ボナー監査役 株式会社さわやか倶楽部監査役	8,140株
〔取締役候補者とした理由〕 候補者は、経営企画室などの経歴を通じて業務に関する豊富な知識を有しております。また、2014年6月から当社常勤監査役、2017年6月から監査等委員である取締役を務めており、その経験や高い見識を活かすことにより、監査等委員である取締役としての役割を十分に果たすことができるものと判断し、同氏を引き続き候補者としております。			
2	住川守 (1947年12月16日生)	1966年4月 熊本国税局入局 1971年7月 長崎税務署管理課 1991年7月 福岡国税局調査査察部 2005年7月 八幡税務署筆頭特別国税調査官 2007年7月 同署辞職 2007年10月 住川守税理士事務所開業（現任） 2009年7月 当社監査役 2017年6月 当社取締役（監査等委員）（現任） 現在に至る (重要な兼職の状況) 住川守税理士事務所代表	3,287株
〔社外取締役候補者とした理由〕 候補者は、税理士として会計の専門知識と経験を有し、客観性のある視点を備えていることから、直接企業経営に関与した経験を有しないものの当社の監査等委員である社外取締役としての役割を十分に果たすことができるものと判断し、同氏を引き続き候補者としております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社 株 式 の 数
3	岸 本 進 一 郎 （1975年6月16日生）	2001年10月 朝日監査法人（現 有限責任 あずさ監査法人）入所 2005年 6 月 公認会計士登録 2006年 4 月 公認会計士足立光三事務所入所 2007年 1 月 公認会計士岸本会計事務所開設（現任） 2012年 6 月 当社監査役 2017年 6 月 当社取締役（監査等委員）（現任） 現在に至る （重要な兼職の状況） 公認会計士岸本会計事務所代表	4,935株
〔社外取締役候補者とした理由〕 候補者は、公認会計士、税理士としての識見と経験を有し、企業会計の実務に長年にわたり携わっていることから、直接企業経営に関与した経験を有しないものの当社の監査等委員である社外取締役としての役割を十分に果たすことができるものと判断し、同氏を引き続き候補者としております。			

- （注）
1. 各監査等委員である取締役候補者と当社の間には、いずれも特別の利害関係はありません。
 2. 当社は、嶋井太郎氏、住川守氏、岸本進一郎氏との間で会社法第427条第1項に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお本総会において、本議案が承認された場合、当社は嶋井太郎氏、住川守氏、岸本進一郎氏と当該契約を継続する予定であります。
 3. 住川守氏、岸本進一郎氏は監査等委員である社外取締役候補者であります。当社監査等委員である社外取締役としての在任期間は、それぞれ2年であります。
 4. 各監査等委員である取締役候補者の所有する当社株式の数には、ウチヤマホールディングス役員持株会における持分を含めた実質所有株式数を記載しております。

第5号議案 会計監査人選任の件

監査等委員会の決定に基づき、当社の会計監査人について、本株主総会の終結の時をもって任期満了となる明治アーク監査法人に代えて、新たに太陽有限責任監査法人の選任をお願いするものであります。

監査等委員会が太陽有限責任監査法人を会計監査人の候補者とした理由は、現会計監査人の継続監査年数を考慮し、新たな視点で監査が期待できることに加え、同法人の独立性、品質管理体制、専門性の有無、当社がグローバルに展開する事業分野への理解度及び監査報酬等を総合的に勘案した結果、適任と判断したためであります。

会計監査人候補者は次の通りであります。

(2019年3月31日現在)

監査法人の名称	太陽有限責任監査法人 Grant Thornton Taiyo LLC (英文名称)		
主たる事業所所在地	東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー 本部・東京事務所、大阪事務所、神戸オフィス、札幌事務所、東北事務所、新潟事務所、名古屋事務所、北陸事務所、福井オフィス、富山オフィス、中国・四国事務所、九州事務所		
沿革	1971年	9月	太陽監査法人設立
	1994年	10月	グラント・ソントン インターナショナル加盟
	2006年	1月	ASG監査法人と合併し太陽ASG監査法人に社名変更
	2008年	7月	有限責任組織形態に移行 太陽ASG有限責任監査法人となる
	2012年	7月	永昌監査法人と合併
	2013年	10月	霞ヶ関監査法人と合併
	2014年	10月	太陽有限責任監査法人に社名変更
	2018年	7月	優成監査法人と合併
概要	資本金	443百万円	
	構成人員	代表社員・社員	77名
		特定社員	3名
		公認会計士	292名
		公認会計士試験合格者等	137名
		その他専門職	162名
		事務職員	67名
		合計（非常勤を除く。）	738名
被監査会社数	922社		

(注) 会計監査人の選任が承認された場合には、当社と太陽有限責任監査法人との間で、会社法第427条第1項及び当社定款第39条に基づく責任限定契約を締結する予定であります。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項各号に定める最低責任限度額と定める予定です。

以上

株主総会会場ご案内図

<会場> JR九州ステーションホテル小倉 5階 「飛翔の間」
福岡県北九州市小倉北区浅野1丁目1番1号
TEL 093-541-7111 (代表)

